

産業構造審議会 製造産業分科会 宇宙産業小委員会（第1回）

議事要旨

日時：令和6年3月25日（月曜日）16：00～18：00

場所：経済産業省本館5階5-B会議室及びオンライン開催（Teams）

出席者

白坂委員長、石田委員、木村委員、笹岡委員、新谷委員、鈴木委員（オンライン参加）、松尾委員、宮田委員

議題

1. 委員長の選任及び議事の運営について
2. 国内外の宇宙産業の動向を踏まえた経済産業省の取組と今後について
3. 宇宙戦略基金での実施を検討中のテーマ案について【非公開】

議事概要

1. 委員長の選任及び議事の運営について

宇宙産業小委員会の委員長として、白坂委員が選任された。

また、事務局から資料3を説明の後、議事の運営について了承された。

2. 国内外の宇宙産業の動向を踏まえた経済産業省の取組と今後について

事務局から資料5を説明の後、自由討議が行われた。委員からの主な意見は、以下のとおり。

- 世界各国で産業政策として宇宙が扱われるようになる中で、日本の宇宙産業としての成長戦略を描いていくことが重要。全分野において世界で勝っていくことは難しい中で、どの分野で産業競争力を持っていくかが大事な論点。宇宙産業はイネーブラーとしての技術が多いので、宇宙だけでやろうとせず、他の産業分野との連携が重要。
- 緊要性の高いものとして提示された3課題は、早く手をつけなければいけない。同時に、すぐに手をつけるべきものと継続的に実施すべきものを仕分けしていく必要がある。小型衛星や軌道上サービスなど、日本がユニークな部分・世界に対して強みがある分野も同時にうまく育てていく必要がある。
- 経済産業省が従前より積極的に実施しているところだが、データ利用、宇宙利用は重要。

- 地上の産業では DX 化が進んでいるが、宇宙はなかなか踏み込めていない。宇宙産業全体の競争力に直結する基盤技術として、輸送・衛星等の分野を超えて取り組めるとよい。
- 防衛予算が増えてきている中、日本でもあともう一步でできる衛星コンステレーション等の分野について、経済産業省がここ数年の間に注力し、基盤を作ることが非常に大事。今が正念場であり、これが国内で構築できないと、防衛省が海外から調達することになってしまう。防衛・安全保障と産業振興が一体となることが重要。
- 輸送について、今後 10 年程度で国内の打上能力を年 30 回に伸ばしていく目標を政府として掲げているが、相当チャレンジング。これを実現するために様々な技術開発を検討すると同時に、30 機以上の打上げを可能とする射場の整備が必要。
- 現在の宇宙関連企業のみでは、今後増加する需要に対応しきれない。他の分野での技術力があるプレイヤーの参入を促進する政策を推進すべき。
- 衛星コンステレーション等、スケールメリットを押し出すことには慎重な議論もある。宇宙の持続的な利用の観点にも配慮したシステムが重要。
- 社会課題解決に繋がるソリューションのマネタイズは難しい。社会課題解決に付加価値がつき、可視化できる仕組みの検討も必要ではないか。
- 量産化技術は注目すべき。現状、衛星はメーカーとオペレーターが一体化している産業構造であるが、今後、メーカーとオペレーターが分かれていき、衛星のマニュファクチャリング産業ができていく可能性がある。
- ハイパースペクトルセンサ HISUI の話があったが、多波長は扱いにくいセンサであり、どの波長が何を意味しているのかのライブラリはどの国もまだ揃っていない。マルチ、ハイパーの市場はまだ成熟していないので、日本が先駆けてやるビジネスチャンスになり得る。
- 社会課題解決に付加価値をつけ、マネタイズするのに重要なのは、誰がカスタマーになるかということ。社会問題を抱えている役所がカスタマーになることが重要。

3. 宇宙戦略基金での実施を検討中のテーマ案について【非公開】

事務局から資料 6 を説明の後、自由討議が行われた。

以上